

銘柄米生産情報

会津若松市・磐梯町・猪苗代町・JA会津よつば（あいづ地区）
JA全農福島県本部・福島県農業共済組合会津支所
福島県会津農林事務所農業振興普及部



令和4年産 水稻の生育経過

<育苗期>

- 4月上旬の高温により一部で浸種中に出芽が見られましたが、播種作業は概ね平年並みに行われました（表1）。
- 目立った病害は確認されませんでした。4月から5月にかけて気温変動が大きかったため、低温による不揃いや発芽遅延、高温による障害が一部で見られました。

<田植期>

- 田植作業はほぼ平年並みに行われました（表1）。
- 6月上旬の低温時に活着期となった苗は、根張り不良が見られました。
- 表層剥離や還元障害が一部のほ場で確認されました。

<分けつ期>

- 6月2、3半旬の低温により、草丈と茎数は平年を下回りました。生育はやや遅延し、葉色も淡く推移しました。
- 最高分けつ期頃に高温傾向であったため、遅延していた生育は徐々に平年値に近づきました。
- 茎数については回復傾向が見られたものの、初期分けつが充分でなかったほ場を中心に平年を下回りました。
- 葉色は平年より淡く推移しました。

<幼穂形成期>

- 6月下旬から7月下旬にかけて高温多照に推移し、生育は進みました。
- 7月中、下旬には一部ほ場で穂いもちの発生がみられました。
- 中干し期間が好天に恵まれたことから、その後も葉色の淡いほ場が目立ちました。

<出穂期>

- 出穂前後にやや寡照であったことから、出穂期は平年より1～3日程度遅くなりました（表2）。

<登熟期>

- ほ場や品種により、成熟期は1～3日遅くなりました。
- 箱剤施用のみのほ場や山間地等では、穂いもちが確認されました。また、平坦部ではごま葉枯病の発生もみられました。
- コシヒカリを中心に、多くのほ場で倒伏が見られました。

表1 春作業進捗状況

		始期 (5%)	盛期 (50%)	終期 (95%)
播種期	本年	4/15	4/19	4/26
	平年	4/15	4/19	4/27
田植期	本年	5/15	5/19	5/26
	平年	5/15	5/20	5/26

表2 地域および品種別の出穂期

品種名	本年	平年	差
ひとめぼれ(平坦)	8/2	8/2	0
コシヒカリ(平坦)	8/9	8/9	0
里山のつぶ(山間)	8/7	8/5	+2
ひとめぼれ(山間)	8/10	8/9	+1

令和4年産米の作柄概況

<収量・品質>

- ・ 収量は平年並かやや下回ったほ場が多くなりました。
- ・ 整粒の粒張りは平年並みでした。
- ・ 無防除のほ場や周囲より早く出穂したほ場で斑点米カメムシによる吸汁害が見られましたが、丁寧な調製作業等が行われ、JA会津よつばの農産物検査(11月16日現在)では1等米比率は約98%となっています。

次年度へ向けた技術対策

<耕深は15cmを確保しましょう！>

県内水田の作土層は、昭和30年代は14~15cmでしたが現在は1~2cm浅い傾向となっています。適正な耕深の確保は、気象変動に強い稲作りと肥料の効率的利用にもつながります。

作土層を確保した場合のメリット～生育ムラなどが出にくくなります～

- ・ 根域が広がり、根の十分な伸張が促進される。
- ・ 作土層の肥料濃度が適正となる。
- ・ 地温や水分などの影響を受けにくくなる。
- ・ 稲わらをすき込んだ場合に、異常還元や根の障害が起きにくくなる。

深耕を行うときの留意点 ～土壌条件により異なります～

- ・ 排水のよい水田(灰色、灰褐色、黄褐色、礫質等)は、深耕の効果が高く、地下水位の高い水田(グライ土、黒泥土、泥炭土)や、高冷地水田、漏水田などは深耕の効果が期待できません。

<発生した雑草に応じた除草剤の検討を！>

- ・ 令和4年度は、中干し後にノビエ、オモダカ、ホタルイ等後発の雑草が目立ったほ場がありました。雑草の種類に応じて使用する除草剤を検討し、効果的な除草剤を選択しましょう。

表3 除草剤の種類と効果の高い雑草例

	ノビエ	ホタルイ	オモダカ	クログワイ	シズイ
ベッカク (1キロ粒剤、豆つぶ250、ジャンボ)	◎	◎	○	○	○
ジェイソウル (1キロ粒剤、フロアブル、ジャンボ)	◎	○	◎		○
アツパレZ (1キロ粒剤、フロアブル、ジャンボ)	○	○	◎	◎	◎
シグナス (1キロ粒剤、フロアブル、ジャンボ)	○	○	◎	◎	◎

※ ○、◎とも適用雑草として登録があるもの。

※ ◎は現地等で特に効果があったとの意見があったもの。